

## IV 2020年度活動

### 1) 研修部教育・指導

#### (イ) 学 年 暦

2020年度	
5月11日(月)	入所申込受付(オンライン)
5月19日(火)	
5月11日(月)	オンライン入所説明会 12:30～/18:00～
5月12日(火)	オンライン入所説明会 12:30～/18:00～
5月15日(金)	オンライン入所説明会 12:30～/18:00～
5月18日(月)	オンライン入所説明会 12:30～/18:00～
5月19日(火)	オンライン入所説明会 12:30～/18:00～
5月20日(水)	入所試験(オンライン面接)
5月21日(木)	合格発表・入所手続開始
5月25日(月)	入所手続締切
5月26日(火)	前期授業開始(オンライン講座)
7月24日(金)	前期授業最終日
9月15日(火)	後期授業開始
11月20日(金)	後期授業最終日
11月28日(土)	秋季プレゼンテーション大会
1月14日(木)	公開講演会(オンライン)

(ロ) 研修部指導員

◇坂本律行（さかもと・のぶゆき）〈昭和31年1月23日生〉

【略歴】

1979（昭和54）年、早稲田大学教育学部卒業

1982（昭和57）年、成城大学大学院文学研究科コミュニケーション学専攻修士課程修了

株式会社日本マーケティングシステムズ入社（研究員）

1988（昭和63）年、株式会社日本マーケティングシステムズ退社（研究員）

1991（平成3）年、三菱電機オスラム株式会社商品企画課入社（課長代理）

2000（平成12）年、三菱電機オスラム株式会社退社

株式会社ビー・エム・エフティー入社（リサーチディレクター）

2003（平成15）年、日本工学院八王子専門学校マルチメディア科入職（非常勤講師）

2005（平成17）年、株式会社ビー・エム・エフティー退社

2006（平成18）年、日本工学院八王子専門学校マルチメディア科退職（非常勤講師）

株式会社坂本総合研究所設立（代表取締役）

2014（平成26）年、ブルームーンパートナーズ株式会社設立（業務執行役員）

2018（平成30）年、ブルームーンパートナーズ株式会社退社

【共著】

1. 「座・こみゆにけーしょん」
2. 「実践マーケティング講座」

【単著】

1. 「花のマーケット～首都圏で売れている花の現在と今後」
2. 「食べるヘルシー」
3. 「雑誌広告取引EDIについて聞いた」
4. 「雑誌の特殊広告は第2ステージへ」
5. 「新消費時代のブランド選好」

【学会発表等】

1. 「ブランド・コミットメントの測定に関する課題」
2. 社会調査のための自由回答処理方法の共同研究

◇桑原聡（くわはら・さとし）〈1957年9月28日生〉

【略歴】

- 1981（昭和56）年、早稲田大学第一文学部日本史学専修卒業  
株式会社保谷硝子入社
- 1983（昭和58）年、同社退社
- 1985（昭和60）年、リオン株式会社入社
- 1987（昭和62）年、同社退社  
産業経済新聞社入社  
整理部、新潟支局、文化部、雑誌「正論」編集部
- 2017（平成29）年、同社定年  
同社嘱託

【共書】

1. スペインと日本
2. バルセロナ散策
3. 南スペイン・アンダルシアの風景

4. スペイン検定
5. 酒とジャズの日々
6. スペイン文化事典

**【単書】**

1. わが子をひざにパパが読む絵本 50 選
2. わが子と読みたい日本の絵本 50 選
3. 〈ドン・キホーテ〉見参！狂気を失った者たちへ
4. 寛容のすすめ

◇玉手義朗（たまて・よしろう）〈昭和 33 年 7 月 7 日生〉

**【略歴】**

1981（昭和 56）年、筑波大学社会工学類社会経済計画専攻卒業

1992（平成 4）年、TBS テレビ入社

2018（平成 30）年、TBS テレビ退社

現在はフリーランスとして活動中

**【共書】**

1. 経済入門

**【単書】**

1. 円相場の内幕
2. 近代建築 歴史さんぽ
3. あの天才がなぜ転落～伝説の 12 人に学ぶ失敗の本質

◇真下 聡（まつか・あきら）〈昭和 39 年 6 月 20 日生〉

**【略歴】**

1989（平成 1）年、早稲田大学法学部卒業。

朝日新聞入社、西部本社編集局鹿児島支局、同整理部、東京本社編集局整理部、同電子電波メディア局

2004（平成 16）年、東京本社編集局整理部デスク

2011（平成 23）年、東京本社報道局デジタル編集長

2013（平成 25）年、東京本社編成局統合編集センター長補佐（名古屋本社在勤）

2015（平成 27）年、教育総合本部ディレクター

2018（平成 30）年、ジャーナリスト学校ディレクター

◇下平尾直（しもひらお・なおし）〈1968 年 1 月 1 日生〉

**【略歴】**

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程（中途退学）、日本学術振興会特別研究員（DC2）。コピーライターなどを経て、2007 年に（株）水声社に入社。人文書・文学書を中心に、在籍 7 年で 80 数点を刊行する。企画した書籍が、河合隼雄学芸賞、日本翻訳出版文化賞、表象文化論学会奨励賞などを受賞。

2014 年 4 月、いわゆる「独り出版社」として独立し、(株)共和国を創業する。

2019 年 3 月現在、40 点を刊行。

**【編著】**

清田政信『渚に立つ——沖縄・私領域からの衝迫』（共和国、2018）、『燃えるキリン 黒田喜夫詩文撰』（共和国、2016）、『俗臭——織田作之助〔初出〕作品集』（インパクト出版会、2011）など。

**【共著】**

『表現と教養——スキル重視ではない諸年次教育の探究』(ナカニシヤ出版、2019)、『メディアの本分』(増田幸弘編、彩流社、2017)、『既成概念をぶち壊せ!』(杉村昌昭編、晃洋書房、2016) など多数。

◇新山 賢治 (しんやま・けんじ) (昭和28年8月12日生)

**【略歴】**

1953年山口県生まれ 1977年日本放送協会近畿本部報道部入社。その後、報道局ディレクター、NHK スペシャルプロデューサーを経て、制作局長、理事、NHK エンタープライズ制作本部プロデューサー、現在は企画舎 GRIT 代表。2017年度「NHK スペシャル インパール 戦慄の記録」で芸術祭優秀賞、2018年度「劇場版 8K で解き明かすからだの中の宇宙」で科学映像技術祭内閣総理大臣賞を受賞

**【共書】**

1. どう映っているか日本の姿～世界の教科書から
2. 驚異の小宇宙・人体 第3集・第4集
3. 追及 企業社会
4. 生命 第1集 海からの創世
5. 原爆投下・10秒の衝撃
6. 戦慄の記録・インパール

## (ハ) 講義・演習内容概略

科 目	
マーケティング調査から始まる —そして商品が生まれる—	坂本 律行
この世界、そしてニュースの見方	桑原 聡
出版社の現場から一本づくりの舞台裏	下平尾 直
メディアリテラシー向上講座 ～事例で探るメディアのウソとホント	玉手 義朗
読む・書く・話す・理解し考える—新聞記事を活用 し就活を視野に入れたトレーニング	真下 聡
日経論説講座 上・下期	日本経済新聞論説 委員、編集委員
こうしてドキュメンタリーは創られる ～悪戦苦闘する制作現場～	新山 賢治

マーケティング調査から始まる—そして商品が生まれる—

(火曜日・1 時限講義)

坂 本 律 行

企業は調査を行って、自らの商品やサービスに対する意思決定をしています。新しい製品やサービスのアイデアを洗い出し、ふるいにかけて絞り込む、コンセプトをまとめ、調査を行い、分析する。消費者の手元に商品とサービスを届ける。多くの消費者の購入へ至るまでのあらゆるステップがマーケティングです。市場における消費の動向に関するファクト（事実）を知ることが調査そのものです。それが商品やサービスの開発の出発点となります。

この講座では自分が手にする商品が手元に届くまでのストーリーを感じられるようにお話していきます。

ポイントは次の4つ

1. マーケティング・リサーチ（目的と調査手法／分析の方法、分析結果の見方）
2. コンセプトとターゲット／シーンとベネフィット
3. 市場の考え方、既存の市場と新しい市場、競争的市場
4. 競合との関係（商品のポジショニング／企業とブランドのイメージ）

この世界、そしてニュースの見方（木曜日・1時限講義）

桑原 聡

講義は2部構成とします。

前半は講師が産経新聞に隔週で連載している時事コラム「モンテーニュとの対話」を素材に、コラム執筆の舞台裏を明かしながら、決定稿にいたるまでプロセスを解説します。

後半は、日々の新聞記事を素材に、フェイクニュースや巧みな誘導記事に嵌ってしまわぬよう、ニュースを読むさいの「技術」について説明します。いずれも、参加者の方々に質問しながらの授業となります。

メディアリテラシー向上講座～事例で探るメディアのウソとホント～  
(木曜日・2 時限講義)

玉手 義朗

「殺人事件の容疑者として 25 歳の男が逮捕されました」

テレビからこんなニュースが流れてきました。この男は本当に犯人なの  
でしょうか？

「私はこの方法で 10 キロのダイエットに成功しました！」

バラエティー番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。

この方法を使えば、あなたも痩せることができるのでしょうか？

私たちはテレビや新聞、インターネットなど様々なメディアから発信さ  
れる情報に囲まれています。しかし、その中には誤った情報も多く、「や  
らせ」や「ねつ造」も頻発、安易に信じると、とんでもないことになりか  
ねません。

情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断することが「メディ  
アリテラシー」です。

講座ではメディアの裏側を探りながら、メディアリテラシーを高め、正  
しい情報の活用方法を身につけて行きます。

読む・書く・話す・理解し考える

—新聞記事を活用し就活を視野に入れたトレーニング

(木曜日・2時限講義)

真下 聡

本講座は主に就活準備に入る大学3年生をターゲットとし、新聞記事などを素材に「読む・書く・話す・理解し考える」力を養う具体的なトレーニングを行います。

理想は大学2年から始めることですので2年生、1年生の方ももちろん歓迎します。マスコミ志望者はもちろん、そうでない方もこれから生き抜いていく上で必ず役に立つ内容です。

講座の中では、個人のパソコンやスマホを使います。授業中に講師とメールのやりとりをすることもあります。

実際に行うトレーニングは、現時点では以下のものを考えています。

1. 新聞記事を「縮約」します。自分で選んだ、もしくは講師が指定した記事について、削っていくことで要約します。300字や150字を目標にしていきます。
2. 記事内容を参考に、お題を設けて考えていきます。例えば新サービスや商品、記事の企画などです。
3. 自分の考えた内容をまとめます。相手に伝えることを前提に、メモなどで流れを整えます。
4. スピーチします。1分間に過不足なく詰め込むことを目指します。
5. 文章として書きます。説得力のある、興味深い文章にすることを目指します。

## 出版社の現場から一本づくりの舞台裏（木曜日・3 時限講義）

下平尾直

読書や本が好きな方におすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマ化されるような華やかなギョーカイ？ それとも「出版不況」と呼ばれるように暗くて地道で大変な仕事？ この講座では、本をつくって読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、各界で活躍中のゲストにお招きしたり、本の帯や出版広告を作成したりしながら、具体的で実践的な本づくり＝編集のあれこれを身につけていきます。

01. 「編集」という仕事
02. 出版社とはどんな仕事をするところか
03. 映画で観る出版社の仕事
04. 奥付を「読む」：本に関する歴史と基礎知識
05. 書物の「解体」学：本はこうやってできている
06. 「わたしの1冊」をプレゼンしよう
07. パクリはなぜダメなのか？：著作権を考える
08. どんな本を世に出せばいいのか？：企画書を書く
09. 校正とはなにか？：考え方と実践
10. 装幀とはなにか？：本というブツの愉しみ
11. タイトルと帯文：キャッチコピーの考え方
12. 印刷と製本：まさに「本」の歴史と文化の担い手
13. 本と読者を架橋する：広告／書評の役割と重要性
14. 本はどこで買えばいいのか？：町の本屋さんと「アマゾン問題」

15. 本は買わなくていいのか：町の本屋さんと「図書館生活」

日経論説講座 上期・下期（金曜日・2時限講義）

日本経済新聞 論説委員、編集委員

日本経済新聞の第一線の論説委員らが政治、経済、国際などの分野の背景を講義する。膨大な量の情報がインターネットなどを通じて流れているが、大事な情報を選んで他の情報とつき合わせてニュースの全体像を把握するのはそう簡単ではない。

ニュースの背景にある歴史的な経緯や人物像を紹介しながら、立体的な現代を描く講義を目指します。

上期

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| ①総論（メディアリテラシーの磨き方） | 原田 亮介 |
| ②コラムはこうしてできる       | 大島 三緒 |
| ③社会保障と財政           | 大林 尚  |
| ④米国政治と安全保障         | 大石 格  |
| ⑤日本産業論             | 西條 都夫 |
| ⑥デジタル化と社会          | 田中 暁人 |
| ⑦中国の政治・経済          | 中澤 克二 |
| ⑧ブレクジットとEU         | 佐藤 大和 |

下期

- |          |       |
|----------|-------|
| ①世界経済の行方 | 藤井 彰夫 |
| ②国内政治を占う | 坂本 英二 |

③変わる雇用	水野 裕司
④エネルギー政策	松尾 博文
⑤科学技術	久保田啓介
⑥地方再興	谷 隆徳
⑦朝鮮半島情勢	峯岸 博
⑧日ロ関係	池田 元博

こうしてドキュメンタリーは創られる～悪戦苦闘する制作現場

(金曜日・3時限講義)

新山 賢治

この講座は、テレビ・ドキュメンタリー制作の現場で企画はどのようにして生まれ、制作者はどのように悪戦苦闘し放送にたどりついたか。また、放送後の反響にどう向き合ったかを辿りながら、メディアにとってテレビドキュメンタリーの果たしてきた役割を再確認する時間を受講者のみなさんと共有したいと考えております。

講座は大きく3つの視点から構成します。

一つ目は、過去から現在に至るまで、私や私が知る制作者が手がけたテレビ・ドキュメンタリーを、制作者の一人称で振り返り、舞台裏の悪戦苦闘に迫るものです。時に教室に制作者本人をお招きすることも考えております。

二つ目は現在、私が手がけている企画を披露しながらそれがどのように結実していくか、その悪戦苦闘の様を皆さんに披露し、同時進行で企画誕

生の成り行きを体感していただきます。

三つ目は皆さんと共に、一つの企画を結実させたいと思います。2019年度、学生の皆さんが提案をした「インタビュー・ドキュメンタリー 2020年あなたは」をなんとか結実したいと思います。もう一度、提案を練り直し、ロケ、編集、MAといったポスプロ作業を進め、完成に辿り着きたいと考えております。

前年度の反省も含めて、より成果ある講座にします。よろしく願いします。